

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-159238

(43)Date of publication of application : 04.06.2002

(51)Int.Cl. A01K 29/00
A01K 1/03
A01K 1/035

(21)Application number : 2000-361709 (71)Applicant : IRIS OHYAMA INC

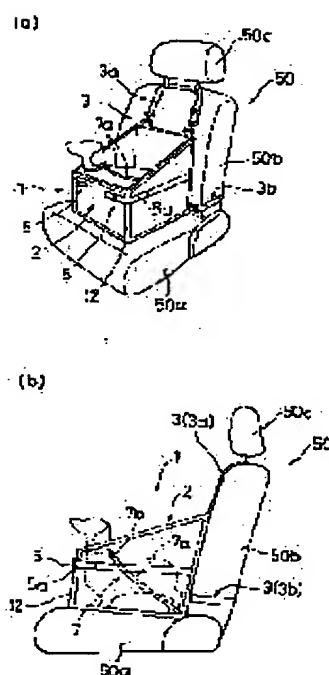
(22)Date of filing : 28.11.2000 (72)Inventor : HATAKE JUNKO

(54) ON-BOARD CASE FOR PET

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an on-board case for a pet capable of readily achieving the prevention of fouling in the interior of a car and preventing a risk on the driving of the vehicle or the pet itself.

SOLUTION: This on-board case 1 for the pet comprises a housing body 2 capable of being developed and assembled for housing the pet, a detachable member 12 for mutually fixing the bottom and lateral faces of the housing body 2, a fixing auxiliary member 5 for checking the release of fixing with the detachable member 12, a mooring member 7 for mooring the pet in the housing body 2 and a fixing member 3 for fixing the housing body 2 on a seat 50. The mooring member 7 is fixed on the side where a contact surface of the housing body 2 with the seat 50 is located and is capable of mooring the pet from the back side and preventing the pet from jumping out to the outside. When a first belt member 3a and a second belt member 3b of the fixing member 3 are stretched over the seat 50 the housing body 2 can be brought into close contact and fixed on the seat 50.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 09.05.2005

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 06.01.2006

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開 2000-215923 8

(P 2000-215923 8 A)

(43) 公開日 平成14年6月4日 (2002. 6. 4)

(51) Int. Cl. 7	識別記号	F I	テマコード* (参考)
A 0 1 K	29/00	A 0 1 K	29/00
	1/03		Z
	1/035		Z

審査請求 未請求 請求項の数 1 8 O L

(全 1 1 頁)

(21) 出願番号 特願2000-361709 (P2000-361709)

(22) 出願日 平成12年11月28日 (2000. 11. 28)

(71) 出願人 391001457

アイリスオーヤマ株式会社

宮城県仙台市青葉区五橋二丁目12番1号

(72) 発明者 畠 純子

宮城県仙台市青葉区五橋二丁目12番1号

アイリスオーヤマ株式会社内

(74) 代理人 100081318

弁理士 羽切 正治

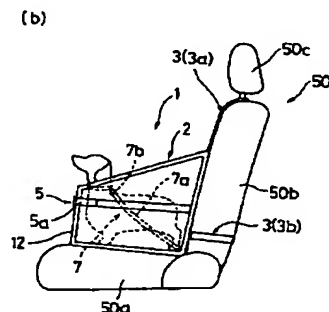
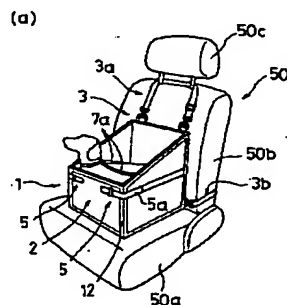
F ターム (参考) 2B101 AA13 AA20 GA01 GA03

(54) 【発明の名称】 ベット用車載ケース

(57) 【要約】

【課題】 車内の汚損防止を容易に達成可能であり、車両の運転やベット自体に対する危険を防止可能なベット用車載ケースを提供すること。

【解決手段】 ベット用車載ケース 1 は、展開、組立可能であってベットを収容する収容体 2 と、収容体 2 の底面及び側面同士を互いに固定する着脱部材 1 2 と、着脱部材 1 2 による固定が解除されることを抑止する固定補助部材 5 と、ベットを収容体 2 内に係留する係留部材 7 と、収容体 2 を座席 5 0 上に固定する固定部材 3 とを有する。係留部材 7 は、収容体 2 と座席 5 0 との当接面が位置する側で固定され、ベットを背後側から係留して外部への飛び出しを防止可能である。また、固定部材 3 の第 1 のベルト部材 3 a 及び第 2 のベルト部材 3 b を座席 5 0 に掛け回せば、収容体 2 を座席 5 0 上に密着固定することができる。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 少なくとも底面及び側面を有し展開、組立可能であってペットを収容する収容体と、前記収容体を車両の座席上に固定する固定部材とを有することを特徴とするペット用車載ケース。

【請求項 2】 前記収容体は、前記底面及び前記側面同士を互いに固定する着脱部材を有することを特徴とする請求項 1 記載のペット用車載ケース。

【請求項 3】 前記着脱部材による前記底面及び前記側面同士の固定が解除されることを抑止する固定補助部材を有することを特徴とする請求項 2 記載のペット用車載ケース。

【請求項 4】 前記ペットを前記収容体内に係留する係留部材を有することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 のうちいずれか 1 記載のペット用車載ケース。

【請求項 5】 前記収容体は、前記底面及び前記側面にそれぞれ設けられた基材と、前記基材を被覆する被覆部材とを有することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のうちいずれか 1 記載のペット用車載ケース。

【請求項 6】 前記収容体は、前記基材と前記被覆部材との間に設けられて衝撃を吸収する弾性材を有することを特徴とする請求項 5 記載のペット用車載ケース。

【請求項 7】 前記収容体の側面と前記座席との当接面に位置する前記弾性材の肉厚は、他の部位より小であることを特徴とする請求項 6 記載のペット用車載ケース。

【請求項 8】 前記収容体の側面の高さの一部は、他の部位より大であることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 7 のうちいずれか 1 記載のペット用車載ケース。

【請求項 9】 前記収容体は、前記側面が前後及び左右の 4 つの面からなり、前記着脱部材は、前記底面と前記左右の面及び前記前面と前記左右の面とを互いに固定することを特徴とする請求項 2 記載のペット用車載ケース。

【請求項 10】 前記固定補助部材は、前記収容体の上部に設けられ、第 1 の側面上に固定された固定ベルトと、第 2 の側面上に固定されて前記固定ベルトを挿通するリングとを有し、前記リングに挿通した前記固定ベルトの端部を前記第 1 の側面に向けて折り返して固定することを特徴とする請求項 3 記載のペット用車載ケース。

【請求項 11】 前記係留部材は、前記収容体の内側に固定された帯状部材と、前記帯状部材の先端に設けられて前記ペットに対して連結される連結部材とを有することを特徴とする請求項 4 記載のペット用車載ケース。

【請求項 12】 前記帯状部材は、前記収容体と前記座席との当接面が位置する側において前記収容体に対して固定されていることを特徴とする請求項 11 記載のペット用車載ケース。

【請求項 13】 前記帯状部材は、長さが前記底面の対角線の長さより小であることを特徴とする請求項 11 又は請求項 12 記載のペット用車載ケース。

【請求項 14】 前記固定部材は、前記収容体の外側に設けられて前記座席に掛け回される少なくとも 1 つのベルト部材を有することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 13 のうちいずれか 1 記載のペット用車載ケース。

【請求項 15】 前記固定部材は、前記底面及び／又は前記側面上に設けられて前記座席のシートベルトを挿通する開口部を有することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 13 のうちいずれか 1 記載のペット用車載ケース。

【請求項 16】 前記固定部材は、前記収容体に対して固定されて前記座席の座部と背部との隙間に挿入される係止部材を有することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 13 のうちいずれか 1 記載のペット用車載ケース。

【請求項 17】 前記固定部材は、前記収容体に設けられた係合部材と、前記座席側に設けられて前記係合部材に係止する受け側部材とを有することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 13 のうちいずれか 1 記載のペット用車載ケース。

【請求項 18】 前記収容体は、該収容体の内部を覆う天面を有し、前記天面は網目状の孔部を有することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 17 のうちいずれか 1 記載のペット用車載ケース。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】本発明は、犬や猫等のペットを収容して車両の座席上に固定可能なペット用車載ケースに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、犬や猫等のペットを自動車などの車両に乗せる場合には、車内に汚損防止用の敷物等を装着してこの敷物上にペットに乗せることや、運転者以外の者がペットを抱えた状態で乗車することが行われている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、車内に汚損防止用の敷物等を装着することは、手間がかかるものであり、犬や猫等のペットを乗車させる際に、容易に車内の汚損防止を図ることが求められている。

【0004】また、ペットが車内を自由に移動可能な状態であると、車両の運転に重大な危険を及ぼす可能性があり、ペット自体に対しても危険な場合がある。

【0005】本発明は、上記の点に鑑みてなされたものであって、自動車等の車両に犬や猫などのペットを乗せても車内の汚損防止を容易に達成可能であり、ペットを所定の位置に係留して、車両の運転やペット自体に対する危険を防止可能なペット用車載ケースを提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明のペット用車載ケースは、少なくとも底面及び側面を有し展開、組立可能であってペットを収容する収容体と、前記収容体を車両

の座席上に固定する固定部材とを有するものである。

【0007】また、前記収容体は、前記底面及び前記側面同士を互いに固定する着脱部材を有するものである。

【0008】また、前記着脱部材による前記底面及び前記側面同士の固定が解除されることを抑止する固定補助部材を有するものである。

【0009】また、前記ベットの前記収容体内に係留する係留部材を有するものである。

【0010】また、前記収容体は、前記底面及び前記側面にそれぞれ設けられた基材と、前記基材を被覆する被覆部材とを有するものである。

【0011】また、前記収容体は、前記基材と前記被覆部材との間に設けられて衝撃を吸収する弾性材を有するものである。

【0012】また、前記収容体の側面と前記座席との当接面に位置する前記弾性材の肉厚は、他の部位より小であるものである。

【0013】また、前記収容体の側面の高さの一部は、他の部位より大であるものである。

【0014】また、前記収容体は、前記側面が前後及び左右の4つの面からなり、前記着脱部材は、前記底面と前記左右の面及び前記前面と前記左右の面とを互いに固定するものである。

【0015】また、前記固定補助部材は、前記収容体の上部に設けられ、第1の側面上に固定された固定ベルトと、第2の側面上に固定されて前記固定ベルトを挿通するリングとを有し、前記リングに挿通した前記固定ベルトの端部を前記第1の側面に向けて折り返して固定するものである。

【0016】また、前記係留部材は、前記収容体の内側に固定された帯状部材と、前記帯状部材の先端に設けられて前記ベットに対して連結される連結部材とを有するものである。

【0017】また、前記帯状部材は、前記収容体と前記座席との当接面が位置する側において前記収容体に対して固定されているものである。

【0018】また、前記帯状部材は、長さが前記底面の対角線の長さより小であるものである。

【0019】また、前記固定部材は、前記収容体の外側に設けられて前記座席に掛け回される少なくとも1つのベルト部材を有するものである。

【0020】また、前記固定部材は、前記底面及び／又は前記側面上に設けられて前記座席のシートベルトを挿通する開口部を有するものである。

【0021】また、前記固定部材は、前記収容体に対して固定されて前記座席の座部と背部との隙間に挿入される係止部材を有するものである。

【0022】また、前記固定部材は、前記収容体に設けられた係合部材と、前記座席側に設けられて前記係合部材に係止する受け側部材とを有するものである。

【0023】また、前記収容体は、該収容体の内部を覆う天面を有し、前記天面は網目状の孔部を有するものである。

【0024】

【発明の実施の形態】次に、本発明によるペット用車載ケースの第1の実施の形態について、図1乃至図5を参照して説明する。

【0025】図1は、本発明による第1実施例としてのペット用車載ケースの一部破断した状態を示す斜視図であり、枠線内は部分拡大図、図2(a)は、図1に示すペット用車載ケースを組み立てた状態を示す正面図、図2(b)は、図2(a)におけるA-A断面図、図3

(a)は、図1に示すペット用車載ケースを組み立てた状態を示す側面図、図3(b)は、図3(a)におけるB-B断面図、図4は、図1に示すペット用車載ケースを組み立てた状態を示す背面図、図5は、図1に示すペット用車載ケースを展開した状態を示す平面図である。

【0026】図1乃至図5に示すように、ペット用車載ケース1は、上面が開口した箱状に形成されて犬や猫等のペットを収容する収容体2と、収容体2を自動車等の車両の座席50(図7参照)上に固定する固定部材3

(図3(a)及び図4参照)と、収容体2内に設けられて前記ペットを収容体2内に係留する係留部材7とを有する。以下、まず収容体2の詳細について、収容体2を展開した状態に基づいて説明する。

【0027】図5に示すように、収容体2は、底面2a及び側面2b乃至側面2eにそれぞれ設けられた基材22aと、基材22aを被覆する被覆部材22bと、基材22aと被覆部材22bとの間に設けられた弾性材22c(図1、図2(b)及び図3(b)参照)と、被覆部材22bの周縁に設けられて底面2a及び側面2b乃至側面2e同士を互いに固定する着脱部材12とを有する。したがって、収容体2は、基材22aを被覆部材22bで被覆することによって、底面2a及び側面2b乃至側面2eが境界部で折り曲げ可能に形成され、展開及び組立が自在に可能である。

【0028】また、収容体2は、全体が被覆部材22bで被覆され、長方形の底面2aと、底面2aの長手方向に隣接する側面2d(前面)と、側面2dに対向し、かつ底面2aの長手方向に隣接する側面2e(後面)と、側面2eに隣接し、かつ互に対向する一対の側面2b(右側面)及び側面2c(左側面)とからなり、底面2a及び側面2d乃至側面2eのそれぞれの隣接境界部が縫製されている。また、弾性材22cは、ポリウレタン樹脂等からなり、基材22aと被覆部材22bとの間に介装され、外部からの衝撃を吸収可能である。本実施の形態では、弾性材22cは、基材22aを挟んで両面に介装されており、収容体2の内部側に位置する弾性材22cの肉厚dは、外部側に位置する弾性材22cの肉厚eより大きく設定されている。収容体2の内部側に位

置する弾性材 22c の肉厚 d を大きく設定し、かつ収容体 2 の外部側にも弾性材 22c を設けることにより、衝撃の吸収効果の向上が可能であり、ペット用車載ケース 1 全体の質感を向上して美的にも優れた外観を得ることができる。

【0029】また、後面、すなわち座席 50（図 7 参照）の背部 50b との当接部に位置する側面 2e は、収容体 2 の内部側に位置する弾性材 22c の肉厚 d₂ が他の部位の肉厚 d より小さく設定されている。座席 50 との当接部側においては、座席 50 自体が有する弾性を利用可能であることから、弾性材 22c の肉厚を小さく設定してもペット用車載ケース 1 の衝撃吸収効果は低下せず、弾性材 22c の肉厚 d₂ を小さく設定して側面 2e 側全体の厚みを低減することにより、ペット用車載ケース 1 を折り畳んで収納する際の小型化、軽量化を達成することができる。

【0030】収容体 2 の側面 2d 及び側面 2e は、長方形に形成され、前面である側面 2d に対して後面である側面 2e の長手方向の長さが大であり、これに対応して、側面 2b（右側面）及び側面 2c（左側面）は、一

辺が傾斜した台形状に形成されている。したがって、収容体 2 は、側面の高さの一部が他の部位より大であり、収容体 2 を組み立てた状態において、側面 2d（前面）から側面 2e（後面）に向けて傾斜して漸次高さが大きく設定されている。

【0031】このように、座席 50（図 7 参照）の背部 50b との当接部に位置する側面 2e（後面）側の高さを大きくすることにより、側面 2e と背部 50b との当接部の高さを十分に確保することができ、例えば、収容体 2 を猫や小型犬に対応して比較的小型に形成した場合でも、座席 50 に対する汚損防止効果を向上することができる。また、側面 2d（前面）の高さを小さく設定することにより、収容体 2 に猫や小型犬等の小型のペットを収容しても、ペットに対して圧迫感を与えることがなく、収容体 2 内でのペットの動きを阻害することがない。

【0032】また、着脱部材 12 は、本実施の形態ではファスナからなり、側面 2b（右側面）及び側面 2c（左側面）の周縁部と、これに対応する底面 2a 及び側面 2d（前面）の両側部に各々一組ずつ設けられ、底面 2a 及び側面 2b 乃至側面 2e 同士を自在に着脱可能である。したがって、着脱部材（ファスナ）12 を矢印 P 方向（図 1 及び図 6 参照）に引き上げれば、底面 2a 及び側面 2b 乃至側面 2e 同士を互いに固定して収容体 2 を容易に組み立て可能である。

【0033】基材 22a は、収容体 2 全体の剛性を向上して、組み立てた状態の収容体 2 の形状を保持するものであり、底面 2a 及び側面 2b 乃至 2e に対応した形状に形成され、各々の面は、被覆部材 22b により基材 22a を包み込んで縫製されている。なお、基材 22a

は、所定の剛性を有するものであれば、合成樹脂、紙材、木材及び金属等の種々の素材を適宜選択可能であるが、合成樹脂は軽量で強度が大きく、しかもペットが収容体 2 を噛んだ場合でも悪影響を与える恐れがないことから、基材 22a の素材として好適である。

【0034】被覆部材 22b は、基材 22a を被覆して底面 2a 及び側面 2b 乃至側面 2e を境界部で折り曲げ可能に形成し、収容体 2 を組立及び展開自在に構成するものであり、織布、不織布、紙材、合成樹脂、合成繊維等の素材を適宜選択して使用することができる。本実施の形態では、被覆部材 22b が綿製の織布から形成され通気性が確保されており、美的にも優れた外観を有する。

【0035】また、図 1 乃至図 3 に示すように、収容体 2 は、上部に着脱部材 12 による底面 2a 及び側面 2b 乃至側面 2e 同士の固定が解除されることを抑止する固定補助部材 5 を有する。固定補助部材 5 は、収容体 2 の側面 2d（前面）の両側部に位置する着脱部材 12 としてのファスナに各々跨設され、側面 2b（右側面）及び側面 2c（左側面）上に各々固定された固定ベルト 5a と、側面 2d（前面）の両側部に各々固定された D 字状のリング 5b とを有し、固定ベルト 5a の先端部をリング 5b に挿通し、この先端部を側面 2b（右側面）及び側面 2c（左側面）に向けて折り返して、各々側面 2b 及び側面 2c 上に固定可能である。固定ベルト 5a を折り返して固定することにより、側面 2d（前面）と側面 2b（右側面）及び側面 2d（前面）と側面 2c（左側面）とを堅固に固定可能であり、収容体 2 内のペットによって、着脱部材 12 としてのファスナによる固定が解除される方向（図 1 及び図 6 に示す矢印 Q 方向）に力が加えられた場合でも、底面 2a 及び側面 2b 乃至側面 2e 同士の固定を保持することができる。なお、固定ベルト 5a の先端部を側面 2b 及び側面 2c 上に固定する方法は適宜設定可能であり、例えば、固定ベルト 5a の基端部近傍及び先端部に、いわゆるマジックテープ（商標名）を設ければよい。また、側面 2b（右側面）及び側面 2c（左側面）を第 1 の側面、側面 2d（前面）を第 2 の側面とも称する。

【0036】係留部材 7 は、犬や猫等のペットを収容体 2 内に係留する部材であり、収容体 2 の内側に固定された帯状部材 7a と、帯状部材 7a の先端部に設けられてペットに対して連結される連結部材 7b とを有する。連結部材 7b は、いわゆるナスカンと称される開閉自在な環状の部材からなり、例えばペットの首輪等に設けられたリング部材（図示せず）に対して連結可能である。また、帯状部材 7a は、所定の範囲で長さを調整可能であり、収容体 2 と座席 50 の背部 50b（図 7 参照）との当接面が位置する側（側面 2e（後面）側）において、収容体 2 に対して固定されている。本実施の形態では、係留部材 7 は、2 つ並列して設けられ底面 2a と側面 2

e (後面) との境界部において固定されており、帯状部材 7 a の長さを底面 2 a の対角線の長さより小さく設定し、ペットを収容体 2 の側面 2 d (前面) 側を頭部にして収容すれば、ペットは係留部材 7 により背後側から係留される状態になり、収容体 2 の外部に飛び出すことがない。また、ペットを係留部材 7 により背後側から係留すれば、車両が急停車した場合でもペットが前方に投げ出されることを防止することができる。

【0037】図 3 (a) 及び図 4 に示すように、固定部材 3 は、収容体 2 の外側、この場合側面 2 e (後面) の外面側上部に互いに離間して設けられた一対の環状部材 (第 1 の環状部材) 4 a と、側面 2 e (後面) の外面側下部に互いに離間して設けられた一対の環状部材 (第 2 の環状部材) 4 b と、第 1 の環状部材 4 a 同士に連結されて座席 5 0 の頭部 5 0 c (図 7 参照) に掛け回される第 1 のベルト部材 3 a と、第 2 の環状部材 4 b 同士に連結されて座席 5 0 の背部 5 0 b (図 7 参照) に掛け回される第 2 のベルト部材 3 b とを有する。第 1 のベルト部材 3 a 及び第 2 のベルト部材 3 b は、各々両端に結合部材 1 4 a を有し、この結合部材 1 4 a を介して、それぞれ第 1 の環状部材 4 a 及び第 2 の環状部材 4 b に連結されている。結合部材 1 4 a は、いわゆるナスカンと称される開閉自在な環状の部材からなり、第 1 のベルト部材 3 a 及び第 2 のベルト部材 3 b は、第 1 の環状部材 4 a 及び第 2 の環状部材 4 b に対して着脱自在である。また、第 1 のベルト部材 3 a 及び第 2 のベルト部材 3 b は、所定の範囲で長さを調整可能であり、第 1 のベルト部材 3 a 及び第 2 のベルト部材 3 b を座席 5 0 (図 7 参照) に掛け回して緊張させれば、収容体 2 を座席 5 0 に対して密着固定することができる。

【0038】なお、本実施の形態では、固定部材 3 にベルト部材を複数 (第 1 のベルト部材 3 a 及び第 2 のベルト部材 3 b) 設けているが、ベルト部材は少なくとも 1 つ設ければよく、適宜増減が可能である。また、第 1 のベルト部材 3 a 及び第 2 のベルト部材 3 b を掛け回す座席 5 0 (図 7 参照) の部位についても、適宜変更可能である。

【0039】次に、上記の構成からなるペット用車載ケース 1 の使用形態について、図 6 (a) 乃至図 7 (b) を参照して説明する。図 6 (a) 及び (b) は、図 1 に示すペット用車載ケースを組み立てる工程を示す斜視図、図 7 (a) は、図 1 に示すペット用車載ケースを座席上に固定した状態を示す斜視図、図 7 (b) は、図 1 に示すペット用車載ケースを座席上に固定した状態を示す側面図である。

【0040】まず、収容体 2 を組み立てる工程について説明する。図 6 (a) 及び (b) に示すように、着脱部材 (ファスナ) 1 2 を矢印 P 方向に引き上げれば、底面 2 a と側面 2 b (右側面)、側面 2 b (右側面) と側面 2 d (前面) 並びに、底面 2 a と側面 2 c (左側面)、

側面 2 c (左側面) と側面 2 d (前面) とを互いに固定して収容体 2 を展開した状態から容易に組み立て可能である。そして、固定補助部材 5 の固定ベルト 5 a の先端部をリング 5 b に挿通し、第 1 の側面としての側面 2 b (右側面) 及び側面 2 c (左側面) 側に各々折り返して固定することにより、収容体 2 の組立が完成する。また、組み立てた状態の収容体 2 を展開する場合には、固定ベルト 5 a の固定を解除し、着脱部材 (ファスナ) 1 2 を矢印 Q 方向 (矢印 P と逆方向) に移動すれば、底面 2 a 及び側面 2 b 乃至側面 2 e 同士の固定を解除して容易に展開可能であり、ペット用車載ケース 1 は、持ち運びや収納時の利便性が高い。なお、収容体 2 を完全に組み立てず、一部の面を開放した状態で使用することも可能であり、例えば、側面 2 d (前面) のみを開放すれば、ペットを収容体 2 内に収容する場合や、降車させる場合の利便性を向上することができる。

【0041】次に、ペット用車載ケース 1 を自動車等の車両の座席上に固定する工程について説明する。図 7 (a) 及び (b) に示すように、座席 5 0 上に組み立てた状態の収容体 2 を側面 2 e (後面) が背部 5 0 b と当接するように載置する。そして、固定部材 3 の第 1 のベルト部材 3 a を座席 5 0 の頭部 5 0 c に掛け回し、第 2 のベルト部材 3 b を背部 5 0 b の下部に掛け回して、各々の長さを調整して緊張させれば、収容体 2 を座席 5 0 に対して密着させた状態で固定することができる。このとき、側面 2 e (後面) は、他の側面 2 b 乃至側面 2 d より高さが大きく設定されていることから、背部 5 0 b との当接部の高さを十分に確保することができ、ペットによる背部 5 0 b 側の汚損を防止することができる。

【0042】そして、犬や猫等のペットを側面 2 d (前面) 側を頭部にして収容体 2 内に収容し、連結部材 7 b をペットの首輪に設けられたリング部材 (図示せず) に連結してペットを 2 本の係留部材 7 により係留する。このとき、係留部材 7 は、収容体 2 に対して、側面 2 e (後面) 側で固定されていることから、ペットは 2 本の係留部材 7 により背後側から係留される状態になり、帯状部材 7 a の長さを底面 2 a の対角線の長さより小さく設定すれば、ペットが収容体 2 の外部に飛び出すことを防止することができる。

【0043】また、ペット用車載ケース 1 は、着脱部材 (ファスナ) 1 2 に跨設され、側面 2 b (右側面) 及び側面 2 c (左側面) と、側面 2 d (前面) とを固定する固定補助部材 5 を有することから、収容体 2 内のペットによって、着脱部材 (ファスナ) 1 2 による固定が解除される方向 (図 1 及び図 6 に示す矢印 Q 方向) に力が加えられても、底面 2 a 及び側面 2 b 乃至側面 2 e 同士の固定を保持することができる。

【0044】次に、本発明によるペット用車載ケースの第 2 の実施の形態乃至第 4 の実施の形態について、図 8 乃至図 10 を参照して説明する。図 8 は、本発明による

10

20

30

40

50

第2の実施の形態としてのベット用車載ケースを示す底面図、図9は、図8に示すベット用車載ケースの使用形態を示す斜視図、図10(a)は、本発明による第3の実施の形態としてのベット用車載ケースを示す斜視図、図10(b)は、本発明による第4の実施の形態としてのベット用車載ケースを示す斜視図である。なお、本発明による第2の実施の形態乃至第4の実施の形態は、本発明の第1の実施の形態と固定部材3の構成のみが異なるものであり、他の構成については同一であることから、以下の説明においては、相違点を中心に説明する。また、図8乃至図10において、第1の実施の形態と同一の構成及び機能を有する部分には、同一の符号を付している。

【0045】図8及び図9に示すように、本発明による第2の実施の形態としてのベット用車載ケース1は、車両の座席50(図7参照)が有するシートベルト51を使用して座席50上に固定するものである。固定部材13は、収容体2の底面2a上に設けられ、シートベルト51を挿通する開口部13aを有する。

【0046】開口部13aは、被覆部材22bと同一の素材からなり、側面2d(前面)側から側面2e(後面)に向けて拡幅する台形状に形成されている。また、開口部13aは、側面2d(前面)側及び側面2e(後面)の両端部が縫製され底面2aに対して固定され、両端部間が開口した構成になっている。したがって、図9に示すように、シートベルト51を開口部13aに挿通して固定すれば、座席50(図7参照)上にベット用車載ケース1を密着固定することが可能であり、しかも座席50が有するシートベルト51を利用可能であることから、ベット用車載ケース1全体の低コスト化を達成することができ

【0047】なお、シートベルト51が、ELR(緊急ロック式ベルト巻き取り装置)付3点式シートベルトである場合には、図9に示す結束金具52を使用して、シートベルト51の肩側ベルト51aと腰側ベルト51bとを結束して固定すれば、シートベルト51の固定金具51cと結束金具52との間の長さが一定になり、収容体2を座席50上に堅固に固定することができる。また、開口部13aを設ける位置及び数は、適宜設定可能であり、側面2b乃至側面2e上に設けてもよい。

【0048】また、図10(a)に示すように、本発明による第3の実施の形態としてのベット用車載ケース1が備える固定部材23は、側面2e(後面)側の下端部に固定された帯部材23bと、帯部材23bの先端部に固定された係止部材23aとを有する。係止部材23aは、合成樹脂等からなり、円筒状(又は円柱状)に形成されている。そして、係止部材23aを座席50の座部50aと背部50bとの間の隙間に挿入し、係止部材23aを90度回転させて円筒軸が直立する状態にすれば、ベット用車載ケース1を座席50上に固定すること

が可能であり、座席50に対するベット用車載ケース1の固定をより容易に行うことができる。

【0049】また、図10(b)に示すように、本発明による第4の実施の形態としてのベット用車載ケース1が備える固定部材33は、側面2e(後面)側の下端部に固定された一対の係合部材33aと、係合部材33aに対応して車両の座席50側に固定された受け側部材33bとを有する。係合部材33aは、金属又は合成樹脂等からなり、収容体2から突出する状態に設けられている。また、受け側部材33bは、座席50の座部50aと背部50bとの間の隙間内に設けられており、係合部材33aを固定する係止機構を有する。したがって、係合部材33aを受け側部材33bに嵌合させれば、ベット用車載ケース1を座席50上に固定することが可能であり、座席50に対するベット用車載ケース1の固定をより容易に、しかも確実にを行うことができる。

【0050】次に、本発明によるベット用車載ケースの第5の実施の形態及び第6の実施の形態について、図11及び図12を参照して説明する。図11は、本発明による第5の実施の形態としてのベット用車載ケースを示す斜視図、図12は、本発明による第6の実施の形態としてのベット用車載ケースを示す一部破断した状態の斜視図である。なお、本発明による第5の実施の形態及び第6の実施の形態は、本発明の第1の実施の形態と基本構成が同一であることから、以下の説明では相違点を中心に説明する。また、図11及び図12において、第1の実施の形態と同一の構成及び機能を有する部分に同一の符号を付している。

【0051】図11に示すように、本発明による第5の実施の形態としてのベット用車載ケース1は、収容体2に内部を覆う天面43と、天面43を収容体2の上端に固定する閉止部材45とを設けたものである。天面43は、収容体2の上面の開口より僅かに大きく形成され、全面に網目状の孔部43aを有する。また、閉止部材45は、いわゆるマジックテープ(商標名)等からなり、天面43の前端部に設けられた舌片部45aと、側面2d(前面)の上端部に舌片部45aに対応して設けられ舌片部45aを固定する固定部45bとを有する。したがって、天面43を閉止部材45により収容体2の上端に係合した状態で固定すれば、収容体2の開口全体を覆うことが可能であり、収容体2に収容したベットが外部に飛び出すことをより確実に防止可能である。また、天面43は、網目状の孔部43aを有することから、収容体2内の照度や、通気性を確保可能であり、ベットに対する居住性を向上することができる。

【0052】また、図12に示すように、本発明による第6の実施の形態としてのベット用車載ケース1は、複数(この場合4つ)の係留部材7を十字状に設けたものである。係留部材7は、各々収容体2の内側に固定された帯状部材7aと、帯状部材7aの先端部に設けられて

ベットに対して連結される連結部材 7 b とを有し、それぞれ側面 2 b 乃至側面 2 e の中央部であって底面 2 a との境界部において収容体 2 に対して固定されている。係留部材 7 を設ける数や位置は、任意に設定可能であるが、複数の係留部材 7 を十字状に設けることによって、ベットを四方向から均等に係留して、収容体 2 の外部にベットが飛び出すことを確実に防止することができる。

【0053】なお、本発明によるベット用車載ケース 1 の構成は、適宜変更可能であり、例えば、第 1 の実施の形態乃至第 6 の実施の形態を適宜組み合わせた構成であってもよい。また、本発明による第 1 の実施の形態乃至第 6 の実施の形態としてのベット用車載ケース 1 において、底面 2 a の外側面上に合成樹脂、合成ゴム等からなる滑り止め部材を設ければ、ベット用車載ケース 1 の座席 5 0 (図 7 及び図 10 参照) に対する固定効果を向上可能であり、好適である。

【0054】

【発明の効果】以上説明したように、本発明のベット用車載ケースによれば、自動車等の車両に犬や猫などのベットを乗せても車内の汚損防止を容易に達成可能であり、ベットを所定の位置に係留して、車両の運転やベット自体に対する危険を防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明による第 1 実施例としてのベット用車載ケースの一部破断した状態を示す斜視図であり、枠線内は部分拡大図である。

【図 2】(a) は、図 1 に示すベット用車載ケースを組み立てた状態を示す正面図、(b) は、(a) における A-A 断面図である。

【図 3】(a) は、図 1 に示すベット用車載ケースを組み立てた状態を示す側面図、(b) は、(a) における B-B 断面図である。

【図 4】図 1 に示すベット用車載ケースを組み立てた状態を示す背面図である。

【図 5】図 1 に示すベット用車載ケースを展開した状態を示す平面図である。

【図 6】(a) 及び (b) は、図 1 に示すベット用車載ケースを組み立てる工程を示す斜視図である。

【図 7】(a) は、図 1 に示すベット用車載ケースを座席上に固定した状態を示す斜視図、(b) は、図 1 に示すベット用車載ケースを座席上に固定した状態を示す側面図である。

【図 8】本発明による第 2 の実施の形態としてのベット用車載ケースを示す底面図である。

【図 9】図 8 に示すベット用車載ケースの使用形態を示す斜視図である。

【図 10】(a) は、本発明による第 3 の実施の形態としてのベット用車載ケースを示す斜視図、(b) は、本発明による第 4 の実施の形態としてのベット用車載ケースを示す斜視図である。

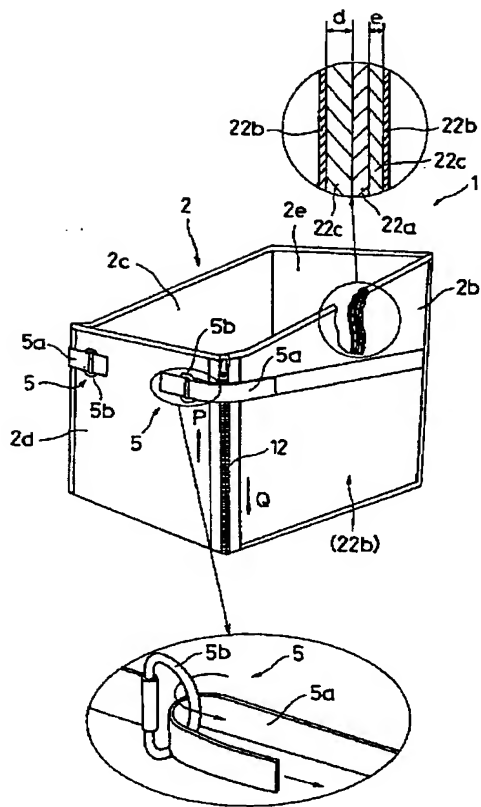
【図 11】本発明による第 5 の実施の形態としてのベット用車載ケースを示す斜視図である。

【図 12】本発明による第 6 の実施の形態としてのベット用車載ケースを示す一部破断した状態の斜視図である。

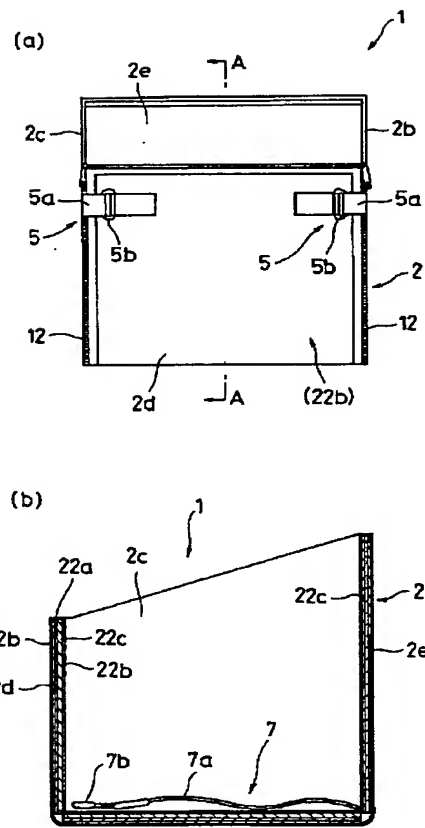
【符号の説明】

1	ベット用車載ケース
2	収容体
2 a	底面
2 b	側面 (右側面、第 1 の側面)
2 c	側面 (左側面、第 1 の側面)
2 d	側面 (前面、第 2 の側面)
2 e	側面 (後面)
3	固定部材
3 a	第 1 のベルト部材 (固定部材)
3 b	第 2 のベルト部材 (固定部材)
4 a	第 1 の環状部材 (固定部材)
4 b	第 2 の環状部材 (固定部材)
5	固定補助部材
5 a	固定ベルト
5 b	リング
7	係留部材
7 a	带状部材
7 b	連結部材
12	着脱部材 (ファスナ)
13	固定部材 (第 2 の実施の形態)
13 a	開口部
14 a	結合部材 (固定部材)
22 a	基材
22 b	被覆部材
22 c	弾性材
23	固定部材 (第 3 の実施の形態)
23 a	係止部材
23 b	帯部材
33	固定部材 (第 4 の実施の形態)
33 a	係合部材
33 b	受け側部材
43	天面 (第 5 の実施の形態)
43 a	孔部
45	閉止部材 (第 5 の実施の形態)
45 a	舌片部
45 b	固定部
50	座席
50 a	座部
50 b	背部
50 c	頭部
51	シートベルト
51 a	肩側ベルト
51 b	腰側ベルト
51 c	固定金具

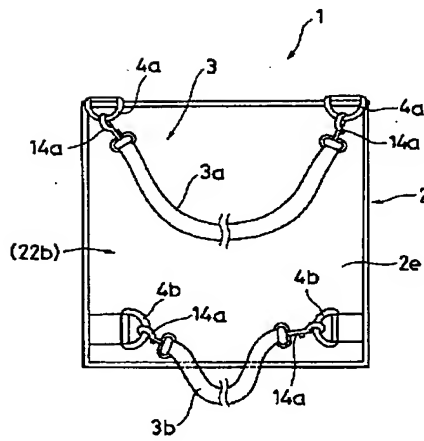
【図 1】



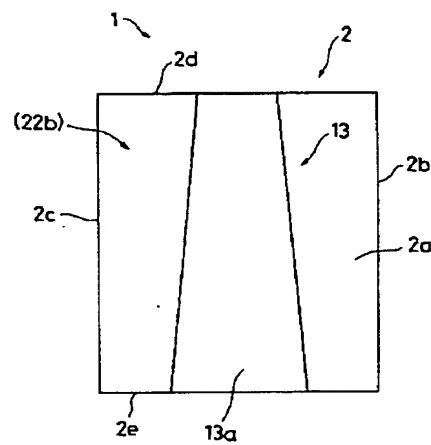
【図 2】



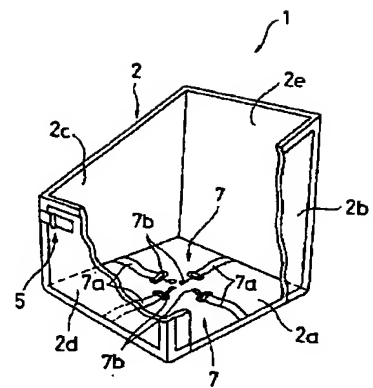
【図 4】



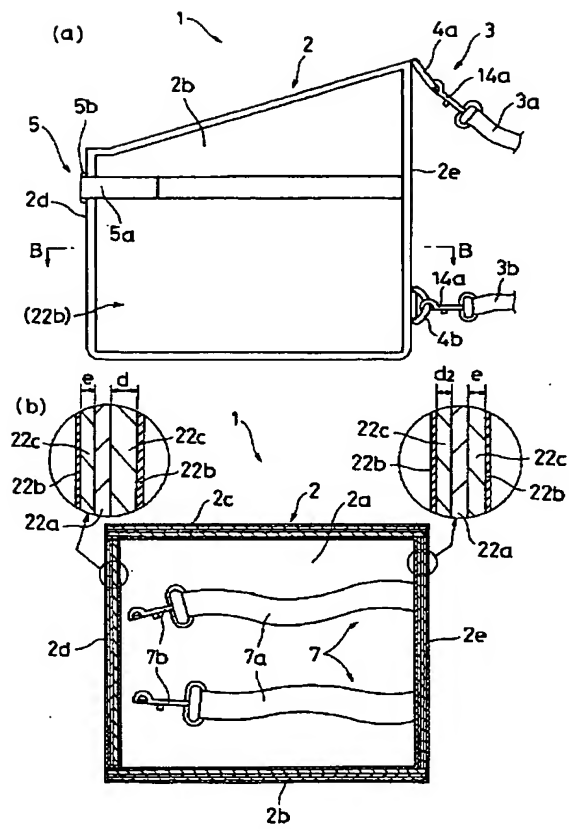
【図 8】



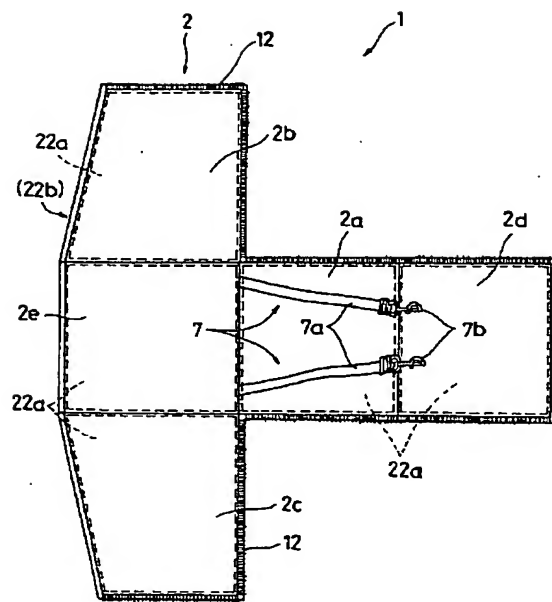
【図 12】



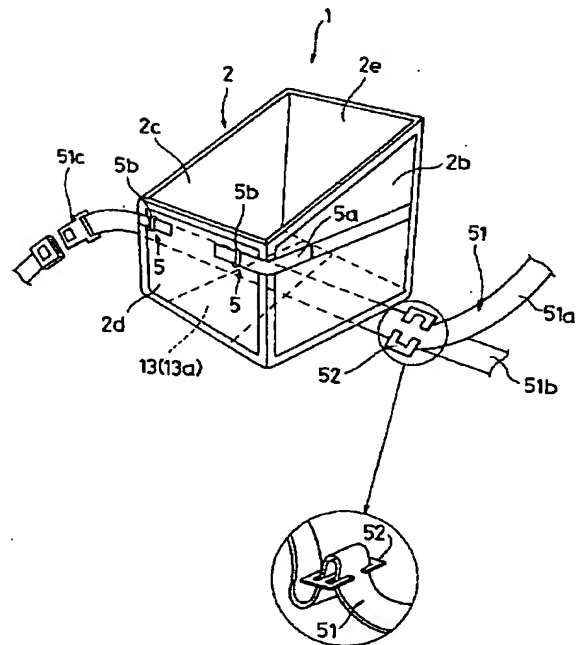
【図 3】



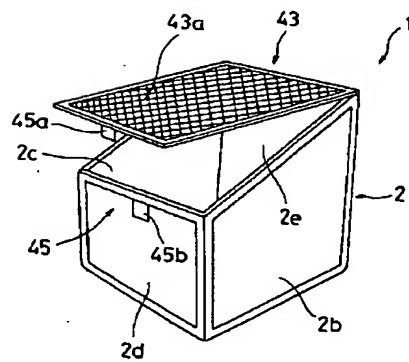
【図 5】



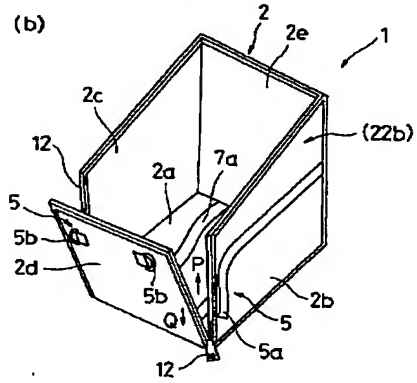
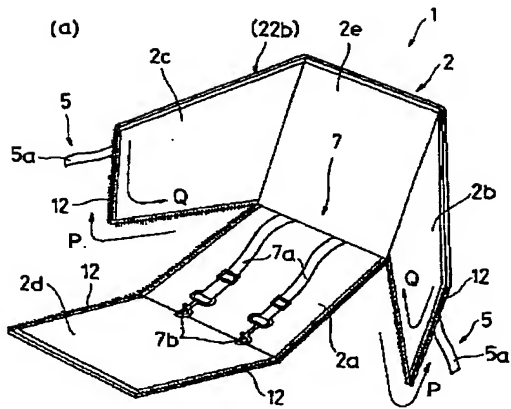
【図 9】



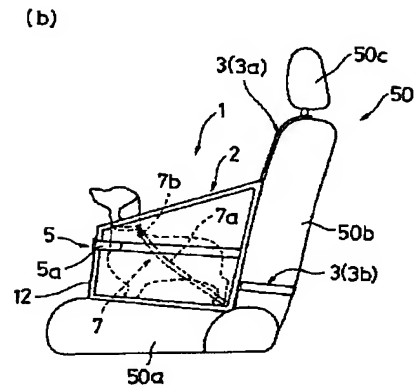
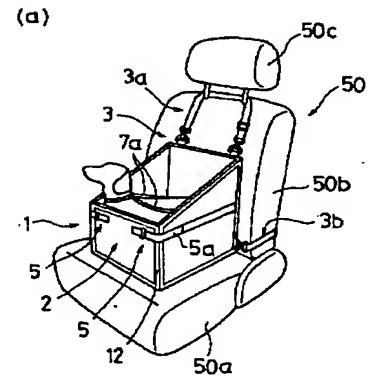
【図 11】



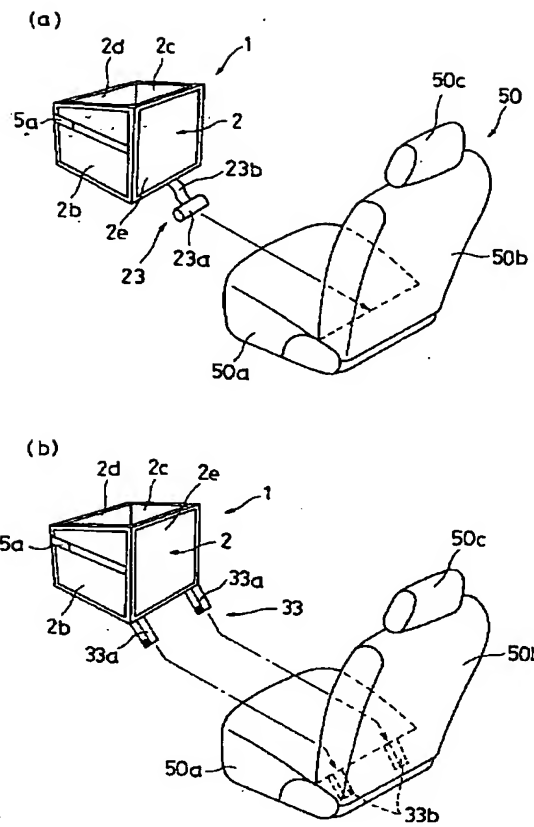
【図 6】



【図 7】



【図 10】



THIS PAGE BLANK (USPTO)